

昭和五十年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議録第三号

館山市議 会

次

目次	場所	時間
日	場	時
出席議員	出席議員	一
欠席議員	欠席議員	一
出席説明員	出席説明員	一
出席事務局職員	出席事務局職員	一
議事日程	議事日程	一
開議	開議	二
報告第四号	報告第四号	二
議案第六十号	議案第六十号	三
議案第六十一号	議案第六十一号	六
議案第六十二号	議案第六十二号	一三
議案第六十三号	議案第六十三号	一四
議案第六十四号	議案第六十四号	一五
議案第六十五号	議案第六十五号	二三
散會	散會	三五
本日の会議に付した事件	本日の会議に付した事件	三五

昭和五十年九月三十日（火曜日）午前十時
館山市役所議場

出席議員 二十七名

一番 吉田勇治郎

三番 穴戸寿夫

五番 黒川平治

七番 本間昭二

九番 鈴木木稔

一番 近藤好雄

三番 林 豊

五番 辻田 実

七番 石井武敏

九番 渡辺昭夫

二三番 菊井敏博

二五番 伊賀多朗

二八番 石井 正

三〇番 山口 康

欠席議員 三名

二一番 田中 禄郎

二七番 遠山ヨネ子

出席説明員

第一号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第三号）

二番 伊藤幸太郎

四番 押元 稔

六番 鈴木正義

八番 松下正己

一〇番 流山源次郎

一二番 栗原一雄

一四番 石井輝久

一六番 安西益男

一八番 渡辺軍治郎

二〇番 和田一郎

二四番 西村真次

二六番 藤田益治

二九番 望月照正

五十嵐 昇

昭和五十年九月三十日午前十時開議

日程第一 報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書

書の提出について

日程第二 議案第六十号 土地改良事業の施行について

日程第三 議案第六十一号 館山市豊房育成牧場の設置及び管理に關する条例の一部を改正する条例

の制定について

日程第四 議案第六十二号 館山市道路路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に關する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第五 議案第六十三号 昭和五十年年度館山市一般会計補正予算(第三号)

昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算(第二号)

日程第六 議案第六十四号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算(第二号)

日程第七 議案第六十五号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算(第二号)

開 議 午前十時三分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十五名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

この際申し上げます。本日の議事案件の内容説明は全て終っておりますので、直ちに質疑より行います。

議 案 の 上 程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、報告第四号安房中央土地改良区

(区)の経営状況説明書の提出についてを議題といたします。

報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

質 疑 応 答

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑願います。

○一八番(渡辺軍治郎君) 賦課金の収入未済額というのがかなり

載っているんですが、この賦課金の未済額というのはどういう理由で出ているのか、それが一つと、市街化区域、そういうような

ところで農地が見通しとして宅地にかわるというようなことから水利権を失うような、そういうあれが出ていると思うんですが、

そういうような人たちの苦情とか、そういうものがいままです賦課金を積み立ててきて水利権をなくすということで積み立てた金が返らないという、そういう話でしたが、そういう人たちはこれ

からも賦課金を徴収していくのかどうか、そこらの点をお答え願いたいと思います。

○農産課長(岩崎一郎君) 未済額の理由でございますが、本年度は本会計におきまして大体八四・五%の収納率でございます。残り一五%になりましたら、これが未済額になるわけでござい

ます。

発足以来安房中央土地改良区の賦課金の収納率というものは極めて低率だった、そのために昭和四十一年度から当議会にお願いいたしまして農林漁業金融公庫の要請によりまして、市の損失補償の議決を求めるといふような非常手段までとっておったわけで

でございます。これらの事業が緩慢であった、三十二年発足以来今日までの経過をたどって、御存じのように非常に事業が遅々として緩慢であったというための滞納、あるいは意欲的なものが薄かったんじゃないか、こういうことも考えられるわけでございますけれども、当議会の御承認を得まして損失補償というような段階に入りまして若干これが上がりました、八〇兆台を現在維持、保持してあるような状態でございます。そういうような過去の例から徐々に滞納率は解消していつておるといのが現実でございます。まして県営ほ場事業というような大きな面期的な事業が入っております今日、これらの支援と申しますか、納入率はわりあいと向上しておるといのが現実でございます。やはり滞納と申しますのはいろんな事情もございまして、館山市、三芳、丸山、これら全体から平均いたしますとこういうような状態になるわけでございますので、今後ともこの滞納の整理ということにつきましては関係理事者にもっと強力に執行してもらいうように私のほうから指導してまいりたい、かように考えております。

それから第二点目の、おそらくこれは除籍金のことだろうと思えますが、除籍金は市街化のための転用、その他で安房中央土地改良区から縁がなくなるわけでございます。縁がなくなるということは除外されることになりますので、過去のそれを対象とした借入金、それに見合うもの、それから今後二十九年、あるいは二十何九年、年償還の対象となる残存年月がでございます。それは残った人が肩がわりするといふために若干脱会する時点の価格によりまして、平方メートル当たり三十円とか五十円とか、こういった除籍金と申しますか、そういったようなものをいただいております。

わけでございます。したがってそれをいただいた上は何ら責任がないということになるわけでございます。したがって水は自然に回っていくかもしれないけれども、積極的に水を回す、という義務がなくなるわけでございます。

また、反面除外されました該当の除籍金を別途積み立ててございますので、これらを事業の賦課金ですか、こういったものに削減するとか、引き上げ償還、こういったものに回してあるのが現実でございます。そのような状況になっております。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なければ次に進みます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第六十号土地改良事業の施行についてを議題といたします。

議案第六十号 土地改良事業の施行について

質疑応答

○一五番（辻田 実君） この契約について一部直営というふうに書いてありまして、説明のときにも一部の事業については直営でやるということでございますけれども、土地改良区自体がこういう形でやるのか、直営という主体はどこになるのか、そしてどういふような形で行われるのかということについて少し内容を教えてくださいたいと思います。

○農産課長（岩崎一郎君） お答え申し上げます。

土地改良区の施行につきましては、これは土地改良事業の施行

につきましては、この事業そのものは本来ならば議会の議決といふことはないわけでございますけれども、土地改良事業の中の、と申しますより第二次構造改善事業のワクの中で行うほ場整備に關しまして国の実施基準、こういったものに規定されております内容では、二次構のほ場整備事業は、市町村、土地改良区または農協が事業主体で実施しなさいということでございます。現在館山南部でございますが土地改良区はございません。したがって農協と申しますと、大きな事業を実施いたしますと、年一回の總會とか総代会、こういったような意思機関のいろんな關係がございまして、どうもうまいかないということで、市町村の直営でやるのが一番好ましいという県の指導でございます。

したがって、一昨年布沼地区、上郷地区の十五ヘクタールに及ぶ土地改良事業を実施したわけでございますが、その際も事業の施行についての御承認が議會として必要である、これは土地改良法第九十六条の二に規定されております。国の補助がつく場合にこの議決がないと認めませんよと法律でそうなっております。

したがしまして、今回の二次構事業をやります場合、前から御説明申し上げていると思いますけれども、自然休養村の事業でございまして、これを二次構というワクの中で実施しておるわけでございます。したがって二次構のワクの実施基準というふうなものにあてはまってくるわけがあります。事業主体はあくまでも市でございます、直営でございます。事業の工事は請負、あるいは直営、これは当初本年度予算でお認め願っておりますが、一部直営と申しますのは部落の現場の監督、こういったものを雇い上げます費用がこれは市の直接支出で賃金から支払われるという予

定でございます。工事そのものは請負というよりな形になろうかと思ひます。

あくまでもこれは議会の議決を求めるのは、土地改良法九十六条の二によりまして、市町村の場合はその条項により議会の御承認をとりなさいということでございますので、今回御提案申し上げたわけでございますので、よろしく御了承願ひたいと思ひます。

○一五番（辻田 実君） その点についてはわかりました。結局請負と一部直営ということの提案の方法、これはどういうわけなのか。直営なら直営でもって事業の実施についての承認を得ればいいんじゃないかということ、請負ということと出ておりますので、請負ということになると予算の承認が、他の業者に対して名前、その他が出てこないで、白紙の請負という中で出てくるんですから、そこらの扱いはどうなったのか。請負なら請負、直営なら直営という形ですっきりしたほうがよかったですんじゃないかと思ひますけれども、その点についてはどういふふうに解釈したらいいのか、まず第一点お伺ひしたいわけです。

もう一つは、内容はわかりましたけれども、請負に出して、結局現場監督、そういうようなものについて人件費等については、直接市のほうでもって払うというふうになりまして、事業推進についての混乱は、そういうものはないのか。一般的には、名目的には市の直営において全部請負にして、請負のほうは業者のほうから賃金、その他も全部払ってもらふという形の中で、一つの事業を完成するというのが一般的になっておりますけれども、現実的にはそうやられるのかどうか、この場合はそういう法律に基づいてこの直営形態をとらなければならないということで、一部直営と

いうことを入れたのかどうか、合わせてお伺いしたいと思います。

○農産課長（岩崎一郎君） この件につきましてはつきましてはつきり申し上げます。契約の御承認をお願いします。これは契約ではございません、契約の御承認をお願いします。事業主体として市が行います事業の承認を求めているわけでございます。こういう事業をやります、よろしいですかということでございます。この事業をどう執行していくのか、どの業者におまかせするのかということのお願いではないわけでございます。これは予算をお認め願った場合当然事業を伴いますから、これは蛇足のような感じもいたしますけれども、予算をお認め願った以上事業は執行するわけでございます。ではございますけれども、特に土地改良法では事業そのものの執行について議会の御承認をもらいなさいという規定でございます。そういうことで今回お願いしたわけでございます。したがって事業の契約ではございませんので、執行する場合に市としては今後この事業を行う場合には一部請負もあるし、一部直営といいますが、直接人を雇い上げてまして監督、それらのものをお願いするというようなこともあり得るわけでございます。そういう意味合いでございますので御了承願いたいと思います。

○一五番（辻田 実君） 内容についてはわかりました。それで了解できるんですけども、議会の提案の方法として、施行方法請負、カッコして一部直営、こういうことになっておりますと、何か方法として事業を認めるということについて、何か請負もあるし、一部直営でやることもあるしと、それはまたそのときにやるんだということの提案というのは理解できないんですけれども、こういう形でもってこの種の問題については一般的に承認を受け

るものかどうか。私はこの四項目の施行方法については請負なら請負、直営なら直営と、事業主体館山市ということにしておいて事業主体の館山市が施行の段階になりまして予算さえておけば、あと今度館山市が執行であれば、今度館山市が下請けというんですか、請負に出す云々というのは次の段階で出てくる問題であって、予算をとるときに同時に請負と一部直営ということと同時に提案することが不明瞭な感じがしたもんですから、そこらへんについてはどうなのか。分けるとすればどここの部面について何もないし何々ぐらい請負で、何々ぐらいが直営になるんだとか、それと、これとこれは請負に出して、この部面については直営にするんだという詳しい説明をしなければ提案としては不十分じゃないか。文章として請負と一部直営と書いてあるんだからその程度のを明記してもらわないと、何かどっちでもいいというような法律だからという形の提案というのは理解に苦しむんですけれども、もうちょっと説明、ないし方法を伺わしてもらえばと思います。

○農産課長（岩崎一郎君） お答えいたします。

ただいまの件につきましては、事業の施行そのものは請負でございます。と申しますのは、当初予算に上げてございます委託料これが二千七百四十二万九千円、これが全部事業でございます。それから賃金で三十五万円、これが部落の監督補助員、部落の役員を雇い上げます費用でございます。この部分が直営で、こういうことになるわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 一つ伺いたいんですが、土地改良事業とか、こういう事業をする場合には、三分の二以上の賛成がない

と認めないと思うんですが、地元のそういう反対があったのか、それはどれくらいなのか、その点わかったら教えてください。

○農産課長（岩崎一郎君） お答え申し上げます。

確かにそういうものはございました。したがって今回事業を六ヘクタールのこの事業をお認め願う御提案が今までできなかった事情がございます。それで今回五・六ヘクタールは全員賛成してございます。これで実施の設計の段階に入り得る最終的な落ち着いた姿で執行できる、こういうことで御提案申し上げたわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） そうしますと、計画の段階ではもっと広い地域を予定したわけですか、それが結局賛成者だけの地域でやることになった、こういうことですか。

○農産課長（岩崎一郎君） これは実情を申し上げますと、小沼、坂井という部落は非常に水の少ない部落です。水がかりの関係で、水の関係はこの工事の中では予定されておりません。ほ場整備だけですから、その水の範囲内で、やはり配水、それからかん水、こういったいろんな事情がございまして、二、三の方が結局見合わしたという事実はございます。当初からそういった関係者も全部入れる予定であったわけでございますけれども、やはり無理がかかるようでは困るということで、五・六ヘクタール、この面積に落ち着いたわけでございます。したがって今後移動はないはずでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第六十一号館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十一号 館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 使用料の値上げは三月に六千五百円から八千円に上がっていますが、そのときもお尋ねしたんですが、理由は借上料や飼料の値上がり、こういうようなことが理由にな

っているようですが、いま酪農家が飼料の値上がりから経営がピンチにおちいっているというようなのが実際の状況だと思っております。豊房育成牧場をつくったことは酪農の振興というよいことで、市が酪農家に対する一つの手助けとしてこういうことを始めたと思うんですが、そういう点からみれば、いま困っている酪農家をどっちかといえば助けるということが本来だと思っておりますが、飼料、借上料が上がったということを理由にして値上げするのは、三月に上がってまたここで上げるのは、そういう点では考慮がなさすぎるのではないかと思います、その点はどういうふうにお考えですか。

一連の手数料、公共料金が値上げされていますので、何かそれと関連してみんな使用料、手数料を上げるというような感じがするんですが、そこらへんはどういうふうにお考えになっていますか。

○農産課長（岩崎一郎君） お答えいたします。

物価の値上がり、あるいは借地料等の理由によりまして一応お願いしたわけでございますけれども、大体現在牛をお飼いにしている方々の実情をよくお聞きいたしたわけでございます。そういうものをみますと、やはり一カ月大体一万ないし一万二千円の物件費はかかるわけでございます。したがって実費に相当するぐらいのものは、育成牛としてもそれぐらいの費用はかかるし、ましてじゃぶな牛に育てるわけでございますので、関係者の方々に御相談申し上げたわけでございますけれども、やはり常識的な管理、物件費、こういったものについてはやむを得ないんじゃないかというようにございしますので、またいろんな市の事情

もございまして、そういった関係でできるだけ実費に近いもので、細く長くこの事業の健全運営をはかって続けていきたいというのが酪農家の御意見でございました。したがってそれらをしんしゃくいたしました、現在行っております市の運営の面につきまして赤字の幅を少しでも埋めていたきたいという、合わせて今一回お願いしたわけでございます。それらのことを御賢察お願いいたします。

○一八番（渡辺軍治郎君） 市長さんに伺いたんですが、結局豊房育成牧場は市の事業として酪農に役立てるということをやったと思うんですが、市が助成するというのが実は酪農を発展させる上で重要だと思うんですが、何か借り上げや飼料が上がったからそれを全部負担させるんだというようなことでは助成という意味がないわけです。結局市の大事な事業ですから多少市が助成して、やっぱり酪農家の立場に立って、いま酪農家は容易じゃないでしょうから、そういう点は考慮をすべきだと思いますが、どういうふうにお考えになっているのか。

○市長（半澤良一君） 御意見ごもっともでございますが、むしろ今回の場合は私どものところへ畜産関係の方がいらして、現在八千円であるけれどもそれじゃ市もやりきれないだろう、むしろこの際上げてもらっても、他の同種類の育成牧場と比べても安いので、県営並みに上げてもらってもより健全な牛を、十分な管理をしてもらったほうがありがたいんだ、こういう御意見がありましたので農産課長に検討してみたらどうかという、業者のほうからそういう声がありまして検討したわけでございまして、値上げについてはむしろそういう業者の声を反映して値上げをしたわけで

ございます。

○一八番（渡辺軍治郎君）

何か業者のほうからそういう声があったという事で、私の意見とはだいぶ違うようですが、業者の声というのは全体の声なのか、一部の声なのかはつきりしませんが、いま酪農家は困っていると思うんですが、できるだけそういう負担は軽いほうがいいという事は実情だと思うんですが、一部の意見なのか、かなり賛成の意見なのか、そこらがわかりません。市長さん言うのを、そのままああそうかというわけにはいかないと思うんですよ。（笑声）

○市長（半澤良一君）

確かに私のところへ来られたのは二、三人の方でございましたけれども、さらに農産課長のほうからそういう人たちが、業者の声を聞いてもらいまして、畜産奨励委員会にもかけまして、全員の一致をいただいたわけでございます。

○一六番（安西益男君）

たいへん業者のいいお得意さんだと考えますけれども、実際問題として私たちには詳しい事情はわかりませんけれども、業者の方たちの立場、確かにこれは奨励というよりな面から発足したと思いますけれども、畜産奨励委員会、あるいは経済委員会等では検討されたと思いますけれども、そういった経過、実際にはここだけを助成ということも考えもんで、酪農家全体に適用していかなければならないという問題も考慮しなければならぬわけでありまして、こういった点では全然抵抗がなかったかどうか、そういった点スムーズにお認めになったかどうか。畜産奨励委員会、経済委員会等でも検討されていると思うんですが、そういった経過についてお聞かせ願いたいと思います。

○農産課長（岩崎一郎君）

お答え申し上げます。

畜産奨励委員会は六月の十七日に開催いたしましたして、この件につきまして御提案申し上げたわけでございます。この際私どもはつきりいたしますことは、物件費は確かに千三百万程度かかっております。歳入として八百十万、使用料六千五百円の割りでいただいて歳入八百十万でございます。したがって物件費だけで二百五十万ですか、程度の差が生じておる。それからそのほかに職員四名、これは正規の職員でございます。その人件費が六百五十万ですか、かかっておるわけでございます。さらに雑費を合わせますと二千万程度が年間の維持費になるわけでございます。そのような事情でございますし、やはり多額の市の財源を充当いたしますと太く短くということで、奨励事業の維持が困難になりはしないか、こういった畜産奨励委員会の空気が非常に強かったわけでございます。

したがって、畜産奨励委員会の意向としては、物件費はやむを得ない、これは通常酪農家の乳牛の管理に関する費用といったしましてやむを得ない費用がかかるんで、これは負担するのが当然であるけれども、人件費だけは市長さんをお願いできないか、こういった意味合いから市長さんのほうへ特別にお願いに上がったという経過がございます。人件費だけはもう少しばく見込んでいただきたい、物件費につきましては二千五百円程度の値上げならばやむを得ない、こういったことでその面特に強調いたしまして、先ほど市長の御説明されたような経過があったわけでございます。

以上でございますので、御了解願いたいと思います。

○一六番（安西益男君）

むずかしいことはいいんですけれども、そういった該当する酪農家の方たちに抵抗がなかったかというこ

と、スムーズに納得されたかどうかということ。奨励委員会、あるいはまた常任委員会等のそういった会合等の意見で抵抗はなかったかどうかということなんです。

それと、畜産審議会の答申は一万円になったということを知っておりまうけれども、一万五百円ということはどういうことか、合つてお聞きつたと思います。

○農産課長（岩崎一郎君） 一万五百円の内容でございますが、条例ではお預りいたしました牛は十二カ月で返します。しかし中には妊娠中、そういったものがぐあいが悪い、もう一カ月ぐらい面倒をみなければならぬ特殊なケースが出てまいることを想定いたしましたして、十二カ月をこえるものについては一万五百円に値上げしていただきます。五百円を余分にいただく、こういうことで条例はお願いしてございます。したがって条例では最高額を定めていただくという形になるわけでございますので、一年以内は五百円安い一万円、一年をこえて預かるものについては一万五百円というような規則でござります。

○一六番（安西益男） 大体わかりました。

結局、酪農の対象の方たちが認めたというふうに、結果的には抵抗がなかった、そういう空気だったということですか。

○農産課長（岩崎一郎君） その後私も各面にわたりましてお聞きいたしましたところ、やむを得ないだろうという一般業者の空気でございます。

○五番（黒川平治君） 私は育成牧場を利用してゐる一人でございます。また、畜産奨励委員会の一人でございます。

育成牧場の使用目的は乳牛のもと牛づくり、乳牛はやはりもと

牛をしっかりとつくておかないと牝牛の使命を長く長期に發揮することができない。こういう面で育成の過程において物的飼育の面だけでなく解放の、やはり放牧の過程が必要だ、こういうような面からこれを利用しているのでございます。

この料金の面につきましては、奨励委員会のとくに相談をかけられましたが、やはり私も自分で飼育をしている、いま飼育料は大体どのくらいかかるか、こういう面から計算をして、県の育成場では一万五百円、これは県の例でございます、これでもなお特殊な種牛の育成に安い、こういうような面でこれが私どもの声でございます。結果的にこういうような面に対しては、おそろく皆さん異議なかったと思います。たいへん課長さんも苦しいような立場から回答しているようでございますが、私も利用者として特殊牛の育成の過程において月一万五百円は安過ぎると、なお私もはそう思っているものでございます。それは安いにこしたことはございません。しかし、これは育成の過程においてさきも申し上げましたとおり、絶対房州の乳牛のもと牛育成の過程において必要だ、こういう点において長く館山市の経営で運営して、かように考えておいたわけでございます。たいへんどうも。

○一三番（林 豊君） 農産課長にひとつ伺いたしますけれども、畜産奨励委員会等を通じて、いま五番議員さんからも意見がございましたが、基礎牛の育成でござりますけれども、その基礎牛が豊房育成牧場で育てられて、どの程度基礎牛として残っているか。毎年毎年それをチェックなさったことがあるか、どんな過程で移出をされているかということを調べたことがございますか、お伺いいたします。

○農産課長（岩崎一郎君） それに關しまして、お答え申し上げますが、私も育成いたしました牛につきましては、どこまでも地元に残してもらいたい、これは希望でございます。しかし若干外へ出ておる、と申しますのはこれは派生的な問題だろうと思うんでございますけれども、やはりおるのを待ちまして、足腰のじょうぶな育成牛であるという、そういった業界筋の評価と申しますと口はばったいんでございますけれども、そのようなことを聞いております。ほとんどの牛が地元に残る、こういうことで私もお願いしておるわけでございます。

このことにつきましては、安房共済家畜診療所ですか、この獣医さんが大体追跡調査しておるようでございますし、私のほうでは的確な数字はつかんでおりません。

○一三番（林 豊君） いま伺ったところ、的確な追跡調査は行っていないというふうなことでございますけれども、いまの課長の答弁にありましたとおり二千万もの、いかに奨励とは言いながら予算を使い、収入において八百万ないし九百万というふうなことでございますので、ひとつ基礎牛をここに残すんだというふうな意味から徹底的にやっていたことが私は望ましいんじゃないかと思ひます。

そこでもう一つ伺いたいんですが、実際一万五百円で牛を預けてそれをおりてきたものを直ちに購入に付した場合に畜主は相当もうかるのかどうか、損をするのかどうか。ここらへんをちょっとお伺いしたいと思ひます。

○農産課長（岩崎一郎君） 私どもいままでそういったような内容ことがらを耳にいたしますと、損をしておるといふ話は聞いてお

らないわけでございます。

○九番（鈴木 稔君） 農産課長さんにお伺いいたします。

今回の値上げの理由といたしまして借地料の値上げ、また諸物価の値上げということでございますが、昨年の三月議会の改正のときもやはり借地料の値上げ、借地料は十アル当たり年間二千円を二千六百円、ただし植林してある部分については現行のままということでは値上げされておると思ひます。またそのほか飼料の三〇%高、肥料の二二・五%高ということで改正されておりますが、その借地料について再値上げされておるのか、それとも近いうちに再値上げするのかお伺いしたいと思ひます。

○農産課長（岩崎一郎君） 現在再値上げされております。二回目でございます。本年の四月一日から二千六百円が三千二百円になっております。そのようにまた予算でお願いしてあるわけでございます。

○九番（鈴木 稔君） わかりました。それではそれについての支払いは五十年度の三月ごろになるわけでしょうか。

○農産課長（岩崎一郎君） 五十一年の三月までにはお支払いできると思ひます。

○二六番（藤田益治君） 一点だけお伺いしたいと思ひます。

豊房育成牧場は非常に育成に対しては優秀だというようなことを仄聞いたしておりますが、本年に入ってからあそこで育成中に事故をおこした牛はあるかどうかお伺いしたかと思ひます。

○農産課長（岩崎一郎君） お答え申し上げます。

一件ございました。七月十八日にたしか正午から三時くらいまでの間、ほかの作業に職員が従事している間でございますので、たしか六月入牧の一年生でございます、二十頭のうちの二頭でこ

ざいます。この一頭が草の食べ過ぎという、結果が出ないとわかりませんけれども、わりあい畜舎に近い牧区のほうに導いて、そこで放牧しておいたわけでございます。放牧いたしましたから大体三週間ぐらいたった時点、ですからたぶん慣れておるとは思っていたんですけれども、やはり集団生活の中で、どういふ関係なのか、集団と離れた場所の草を相当、かような行動をとっていった、これは亡くなりました場所周辺にだいたいの草の食べられたあとがございますので、その結果急性鼓張症、これはしろうとでもってよくわかりませんけれども、第一の胃袋でそうでございます。草を食べ過ぎますと中の成分が異常発酵いたしましたして腹の中を圧迫する、はい臓を圧迫し窒息死、直ちに発見いたしましたので二時、三時半の間でございます。それで応急措置、獣医さんと呼んでいただきましたけれども、すでに死亡して三十分なり一時間経過した後でございます、そのような事故がございました。獣医さんがさっそく検診いたしました結果、集団生活の中でやむを得ない不可抗力じゃないか。草の食べ過ぎでございますのでやむを得ないんじゃないかというような判定でございます。

○二六番（藤田益治君） たいへん御丁寧にありがとうございます。

私は豊房育成牧場のかつての形が、育成牧場の委員会がございましたね。それが畜産奨励委員会というような形にかわってきておる。その育成牧場の委員会のところにそういったものに対しての救済措置として、何か畜主がお互いに負担金のようなものを出してやっておられたやに聞いておりますが、その形が変わってきておりますので、いままでの形がどのように現在になっておるか、そ

の点を教えていただきたいと思ひます。

○農産課長（岩崎一郎君） 引き続き互助会は存続しております。

入牧当時に一頭当たり千円いたいております。それらの積み立てが現在二十万ちよつと出ておりますが、そういった基金的な互助会の残がございます。

したがしまして、先般の事故につきましては、畜産奨励委員会と相談いたしました、これは市の管理の責務に属すべき条例にあるような事象とはいえないんじゃないか、獣医さんの検死の結果そういう断定をくだしたわけでございまして、したがって救済するのは仲間である。互助会、これから最高額の五万円をお見舞金として差し上げたほうがいいんじゃないか、このような決定になりました五万円のお見舞金を差し上げたわけでございます。

共済金のほうも約九万ばかり出ております。したがってそれらを合わせますと大体二十万程度の牛ではあるけれども、事故であるので四万かそこらは畜主の方に目をつぶっていたべくようにとお願ひしたわけでございます。了解をいただいたわけでございます。以上でございます。

○二六番（藤田益治君） 了解いたしました。

現場の職員も非常に一生懸命おやりになっておられるようでございますので、今後ともそういった面に対してよく指導していただくようお願い申し上げます、質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一八番（渡辺軍治郎君） 質發の中では一応やむを得ないんではないかというような御意見もあったようですが、私は先般新聞で見ますと、販購連ですか、十二月までは飼料の値上げを押さえていくんだ、そういう報道がありました。というのは、いま酪農経営がインフレと不況の中でかなり困難な状態におちいているというような中からそういうようなことが出ていると思うんですが、酪農振興という今回立場に立って市が助成するということですから、三月に値上げして半年しかたないのにまた値上げするというようなことは、時期的にみてもう少し先に延ばすべきだと、もう少し安定した、いま不況の解決という方向にかなり目が向いている。そういうような中で結局安定をやっぱりさせていくべきという立場からすれば、市はこういう少しの値上がり分とか、そういうようなものについては助成という立場からこれは援助していくのがたてまえだと思ひんです。何か飼料や借上料が上がったからすぐそれを酪農家の負担にするというようなことでは、助成の意味がなくなると思ひんです。

そういうような点からみて、こういう料金は一般にいろいろの

値上げ、そういうものが問題になっていきます中で、いま値上げするということは適當ではない、そういうふうに考えますので、この値上げには反対するものであります。

○一三番（林 豊君） 私は賛成の立場から討論を行います。

質問の中でも明らかにしていただいたように、非常に多くの支出をしながら基礎牛の育成にあたっているというように、私はむしろ非常に一頭当たりの単価を下回った価格ではないかというふうに考えられます。そこで、私は基礎牛のその後における追跡をお願いしたわけでございまして、ますますこの地方における基礎牛の育成をやって畜産を奨励をするというようなことから、適正な価格でよりよい管理をしていただくというようなことから、このくらいの値上げはやむを得ないというふうに考えますので、賛成いたします。

○一七番（石井武敏君） 私はこの議案には反対でございます。

いわゆる畜産奨励委員会の結論、これも酪農振興するという立場に立った結論と、市の財政を守るといふ、そういう財政的な面を考慮した立場に立った結論と流れがあると思ひんですけれども、今回の値上げは三月にも値上げをしておりますし、もう少し延期して、酪農家、現在経営が苦しくなっているような現状であると思ひます。そういう現状を踏まえて延期をはかるべきで、今回の値上げについては反対いたします。

○二〇番（和田一郎君） 私は賛成の立場から討論を行います。

先ほど来酪農の経営は非常に苦しい、苦しいという発言をされる方がありますが、酪農家の現状を認識しないのも全くはなはだしいもので、（笑声）いま酪農の飼料の値下がり、肉製品の高騰、

乳価の値上げ、神武以来の好景気であります。したがって育成牧場の八千円を一万五百円はまだ安過ぎる、このように思います。かような意味からこれに賛成いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案の採決は起立により行います。

本案に賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第六十二号館山市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十二号 館山市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 有線音楽放送線というのは、レコードとか、そういうものを店に、バーとかそういうようなところに、

チャンネルをつくって送る、そういうようなものですか。

○土木課長（飯田治男君） おっしゃるとおりのものでございます。千葉県下でも木更津までは実施しているようでございます。会社は大阪にございまして、各地方にその放送所があるわけでございますけれども、千葉県にはその放送所がございませんので、東京の放送所から中継することになるそうです。

○一八番（渡辺軍治郎君） ほかにやっている、一メートル十八円というのは大体同じような額なんですか。

○土木課長（飯田治男君） これは説明のときにも申し上げましたけれども、一メートル十八円、ほかでも同じ額でやっているわけです。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決いたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第六十三号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十三号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 社会教育指導員という方が、前にもあったと思うんですが、仕事の内容と月にどれくらいそういう仕事に参加されているのか、その点をお聞きしたいと思います。

○社会教育課長（佐野哲男君） お答えいたします。
週三日以上の勤務でございます。

それから仕事の内容につきましては、各社会教育の団体指導とか、いろんな学習の指導等に当たっているわけでございまして、成人教育の場合とか、家庭教育とか、PTAの集まりとか、そういったようなところへ求めに応じて出かけていくわけでございまして、公民館における講座等の場合にも出かけていろいろ指導に当たっているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） こういう社会教育の指導に当たって

る人たちのごくろうはわかります。しかし内容的にみると週三日以上といっても三日の場合もあるし、月に二十日くらい仕事に従事しているというならば値上げもいいと思うんですが、仕事の内容にもよりますが、社会教育を十分はたせるようなそういう内容の仕事にしてもらうということが大事であると思うんです。

ともかく値上げするということにはそれなりの値上げする理由がはっきりしないと、議員としてすんなりと異議なしでもってきめられないと思います。（笑声）だからお聞きしたわけですが、いま物価が上がってるし、そういう中でたいへんだと思うんですが、希望としてはいま言ったように、値上げするからには仕事のほうも三日じゃなしに、内容的にも充実させてやっていただくようにしてもらいたいと思います。

○一四番（石井輝久君） ちょっと予算のほうに先行して入っちゃうようなきらいがありますが、値上げをすることについてちょっとお伺いします。

四万八千円、これはのちにまた質問したいと思っておりましてけれども、県支出金で四万八千円カットされているわけです。これはのちに質問いたしますからよろしいですが、国のほうでカットする、それで館山市でアップする、何かちょっと矛盾を感じるような気がするんですが、あるいはカットされたものが社会教育指導員の分ではないのかもしれないけれども、そこらまたのちほど予算の面で聞きたいと思えますけれども、その点ちょっとお答え願いたいと思います。

○社会教育課長（佐野哲男君） いまの件にお答えいたします。
実は四万八千円の減でございますが、当初の歳入の分につきま

しては、国のほうで今回決定いたしました額よりも上回った額でそれでやる予定なのでそういう歳入を計画しておくようにという指導がございまして組みましたわけで、それで月一人千円ずつ当初に組みましたものより減ってきたわけでございしますが、それが現行のものに比べまして千円ずつ減ってきておりますけれども、市で出しております現条例におきます差がございまして、それを値上げていただく、そういう提案でございます。

具体的に申し上げますと、国のほうで月一万八千円ということとで予算化しておくのがよろしいということで、県を通した指導があったわけでございます。ところが現時点では一万七千円というところ国が一万七千円、県が一万七千円、市が一万七千円ということになるわけでございますが、そうしたことになりますので、歳入におきまして当初の国の指導、県の指導から下がった額につきましの減額をお願い申し上げた、このようなことでございます。

○一四番（石井輝久君） これはのちにまた質問いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決いたしたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第六、議案第六十四号昭和五十年年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

議案第六十四号 昭和五十年年度館山市一般会計補正予算（第三号）

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一四番（石井輝久君） 若干御質問申し上げます。

まず第一に非常に財政が硬直化しておりますので、ひとり館山市のみならず国、都道府県、一様でございます。その中で将来事業を一部中止、繰り延べ等が起こりはしないかという御質問を私前に申し上げたんですが、そのときは六月議会でございしますが、時間切れで答弁をいただかなかったのでございます。それはけっこうでございますが、この提案されました六十四号議案を見ますと事業面で布良の漁港、伊戸の漁港、大体事業繰り延べとしてはこのようなものであろうかと思えます。まず第一に事業面でこの二つだけでとどまるものかどうか。将来これがさらに他の事業の中止、あるいは繰り延べに及んでいかないかどうか。この点を具体

的に伺いたいと思います。

それから第二点といたしまして、これまた六月議会でございすが御質問申し上げたんですが、その答弁の中に市長から八月に予算の見直しをしたい、こういう御答弁をいただきました。同じく財政課長からは同様の趣旨の御答弁をいただいたわけでございます。今回提案されました補正予算が御答弁いただいた「八月に見直し」という見直しの結果をここに提案したものであるのかということをお伺いいたします。

第三点といたしまして、これは土木、農林等事業課でございすが、当初予算の編成時の予算の単価と実施に当たったの単価との、これは誤差が生ずることは今回の学校建築によっても明らかでございますけれども、その場合に事業課のほうで現実に予算編成時の単価と実施面での単価の差が現実に起こっているかどうか起こっているとしたら教育費で減額したような減額補正を将来やるのかどうか。

以上、三点をお伺いして、あと内容に入りたいと思います。

○財政課長（長谷川広治君）

お答え申し上げます。

事業関係の国庫補助、あるいは県補助に伴う事業量等の関係でございしますが、いまのところ決定をいたしました事業につきましてはそれぞれそのつど補正予算、あるいは当初予算の範囲内におさまっているという状況でございしますが、一部農林関係の事業のうち国庫、あるいは県補助がまだ未済のものがございしますので、そのものについてはいまのところはっきりした見直しはございません。ただ考え方といたしましては、県も相当予算を肅正をしておりますので、若干の減はあるかもわからないという程度でございします。

それから八月の見直しについて、今度の提出いたしました予算の関係でございしますが、見直ししたものの数字も一部入っておりますが、大部分のものは昨日も市長から答弁申し上げましたが、国の施策等もまだ明確でございせんので、そういうものに対応するものもございまして、大部分のものをまだ補正、あるいは追加の原案は提出いたしておりません。

予算単価と実施単価の差が出た場合の関係でございしますが、これはできるだけ私どものほうとしてもそのまま事業費等に振り向けたい。ただ金額的に端数のような場合には不用額として残していくなり、あるいは補正をいたすなりしていきたいというふうに考えております。

○一四番（石井輝久君）

第一点の布良と伊戸の漁港の繰り延べに関連いたしました将来の見通しでございしますが、若干の減があるかもしれないという御答弁でございします。具体的に聞いても無理かと思えますから、この点はこれで終了します。

第二点目でございしますが、財政の見直しの大部分はこの補正の中に入っていないということでございますので、この点も了承いたします。

それから第三の単価の点でございしますが、これは私が御質問申し上げましたのは、当然単価の開きが出てくる、執行残として他に有効に振り向けるというように理解しておるんで、それについてちょっと質問してみただけでございしますが。ですから、この点は御答弁了承いたします。

そこで、今度は一中と二中の国庫負担金の減額更正でございしますが、これはただいま財政課長からの御答弁いただきましたよう

に執行残として残しておくことはできなかったものかどうか。要するに単価更正で実施面と予算面との巨大な差額が出た、残しておけば他に有効に振り向けるところはできるけれども、これはできなかったかどうかということが一つと、できなかったかどうかということをお質問申し上げます。国の財政難もありますので、そういう甘い考え方を国ではとらなかつたであらうということとはわかるんですが、その点御質問申し上げます。

それから、先に六月議会でございますが、交付税の将来の減額はなかるうかという御質問を申し上げたんでございますが、それに対する財政課長の御答弁の中にこういうことがあるんです。

「交付税の今までの経過等から考えましてプラス、マイナス普通交付税におきまして五千万程度の差ができるんじゃないか。それから特別交付税におきましては、現在の状況がそのまま推移すれば、若干の増は見込まれるんじゃないかというふうに考えられますが、いずれにしてもこれは最終時点が明年の三月のはじめでございますので、これまでの間にいろいろ検討もし、対処申し上げます。いきないうちの一部分がおおよそ積算されますので、八月の初旬に交付税の関連をいたしまして、その上で対処をいたしたいというふうに考えております」、これは財政課長の答弁でございます。

そこでお伺いするんですが、普通交付税で五千万程度の差が出るんじゃないかということでございます。普通交付税で減額要素として昨日市長の発言中に九千四百二十万ですか、まあ、大づかみでしょうが、それから特別交付税で二千七百八十万程度というお答えをいただいたんですが、前回の答弁とあまりにも計数

的に開きがあるんで、ちょっと異様な感じを受けたんですが、この点に対する御答弁を承りたいと思います。

ちょっとこまかくなりますが、一二ページの五項の統計調査費で国県支出金三十二万二千円減額されておりますが、統計調査員報酬でございます。今年には国の統計調査が実施されている非常に大きな行事の年度のように承っておりますが、金額的には三十二万二千円です。大きい額とはいえないかもしれませんが、国、県支出金として減額されたのか、むしろ大きな事業をやる年度ですから、増額されてもしかるべきかのように感じられるんですが、その点に対する御見解を承りたいと思います。

それから一五ページの第九款消防費中一九節負担金補助及び交付金でございますが、これと一八節の備品購入費五十二万円減額これはプラスマイナスゼロでございますが、減額更正は団服をつくる予定を作業衣に切りかえたということとはわかりますが、同額を公務災害補償等共済基金負担金として出すわけでございます。とすると、負担金が五十二万円どうしても必要なんで、しょうがないから団服を作業服に切りかえて五十二万円を捻出したように感じられるわけですが、ちょっとこまかいんですが、そこらをちょっとお聞かせ願いたいと思います。

同じく教育費中の五項社会教育費中の、先ほども触れましたけれども、四万八千円の減額、どうもちょっと聞き取り方がうまくないかもしりませんが、ちょっと理解できないので御答弁をいただきたいと思ひます。

以上、お伺いいたします。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） 第一点の御質問にお答えい

たします。

今年度中学校費の中の学校建築費で予定しました事業は、一中の防音改築事業と二中の防音改築事業、これのみでございます。ともにそれぞれ過般の臨時市議会において議決をいただきましたように、すでに工事請負契約にも結ばれましたし、国からそれぞれの事業に伴います補助金の内示通知も受けましたので、この際ここに整理させていただきたい、このように考えて今回お願いいたします。

○財政課長（長谷川広治君） 交付税関係について御説明を申し上げます。

六月時点で約五千万程度の差が出るのではないかというようなことを申し上げたわけでございますが、その後八月に入りまして交付税の普通分につきまして八月算定というものが実施されまして、その結果基準財政収入額と需要額とがきまりまして、御案内のようにそれぞれ差し引きいたしましたものが交付額ということになります。交付額が現在のところ八億七千四百六十六万四千円という数字に相なったわけでございます。

まだ例年でございますと、再算定というものが来年の二月ごろあるわけでございますが、四十九年度の例で申し上げますと、再算定におきまして九千七百万程度交付されております。そういうものがまだ五十年度的場合にははっきりいたさないわけでございますが、状況といたしますと再算定が国の税の減収からなさそうだといい公算が強いようでございまして、現在の八月算定の状況から申し上げますと約九千四百万程度予算計上額との差が出るといふことに相なったわけでございます。

それから特別交付税でございますが、特別交付税につきまして現在の見通しがまだはっきりとしたことを申し上げられない状況でございます。と申しますと、これも来年の三月初旬ごろ最終決定ということでございますが、いまの見通しで申し上げますと一部調整数字というものが交付税の中にございます、それはたとえば期末手当を条例以上に出した場合とか、あるいは競輪の収入が多いとか、あるいはその他いろいろ項目的なものがあるわけでございますが、そういう調整数字がございまして、その調整数字によって約二千八百万程度のものが調整されるのではないかといい予想数字を出したわけでございます。

○庶務課長（綱島憲治君） 統計調査の報酬の関係でございますけれども、当初予算に国からの指示で一応当初予算の数字は組んだわけでございますけれども、それが今回の国勢調査の実施の段階になりました、それぞれ調査員の報酬、その他が決定をされたわけでございますけれども、当初予算の算定の際の費用額と決定された費用額が差がございまして、これを今回補正をしたわけでございます。

したがって、事業量が減ったというわけではなくて、最初はそのような予定で組んでおけということございまして、実際の段階におきましてこういう手当が減額になったということでございます。したがってこれは支出、収入ともに減額、こういうことでございます。

○社会教育課長（佐野哲男君） お答えいたします。先ほども説明申し上げましたが、うまく申し上げられませんが失礼いたしました。

国の社会教育指導員設置補助金でございますが、現在館山市は二人指導員がおります。一人につきまして月、国の、先ほど申し上げましたように最初の指示から一人につきまして千円減額の決定になったわけでございます。つきましては二人で毎月二千円ということになります。それと同額が県のほうで組まれてまいります。国、県、市がそれぞれ三分の一ずつでございますので、国が二千円、県が二千円で四千円ということに相なります。その十二カ月分で四万八千円ということで、国のほうがそういう指示で四万八千円、こういう額でございます。

○防災課長（羽山房雄君） 消防費の備品購入費と十九節の負担金の同額の関係について御説明いたします。

当初予算におきまして団服の購入費といたしまして議決をいただきましたのが三百九十二万八千三百円、これが被服等購入費として計上されております。そのうち団服購入を作業衣の購入にかえましたために、作業衣の額四百二十九着で百六十五万円で購入できた、したがって約二百十五万の差額がここに残ったということになっております。

しかし、消防団員公務災害補償共済基金の負担金が、先に優遇措置の一環として増額されました関係で五十二万ほど不足をみしましたので、一八節のほうからこれを科目をかえてここに計上させていただきます。こういう結果になりました。以上でございます。

○一四番（石井輝久君） 予算の関係で教委庶務課長、社会教育課長、庶務課長、防災課長さんに御答弁いただきましたが、それぞれ了承いたして打ち切ります。

財政課長さんの御答弁でございますが、たしか五月の議会で特

別交付税の歳入の増額が議決されたわけでございます。そのときに私は、ちょっと会議録を持っておりませんが、これはちょっと過大な見積りではありはしないかという御質問を申し上げたように記憶しております。それに対する御答弁はだいじょうぶだというような御答弁であったように思います。しかしながら、いま伺いますと、不確定要素がまだありますので、別にこだわるわけじゃございませんけれども、少なくとも繰り上げ充用をするための予算をつくったとき、特別交付税、これは危ないぞという質問に対して、だいじょうぶだという御答弁をいただいております。

そこで、いま大づかみに二千七百八十万円の特別交付税の減額の見通しがあるということでございます。これは一体どうしたところか。これはもうちょっと申し上げますと、国全体の歳入不足等もございします。国会がまだ開会しっぱなしで審議に入っておりませんので、国会の論議が始まりますとそこらも明らかになってくるとは思いますけれども、しかし普通交付税の先ほどの御答弁で、基準財政需要額と基準財政収入額の差だという御答弁、これはわかるわけです。しかし特別交付税でこれは危ないんじゃないかなるかという質問に対するだいじょうぶだという御答弁はだいて数カ月して、この二千七百八十万ですか、大づかみで、マイナスが出てくるというように見通してございます。こだわるわけじゃないかもしれませんが、将来の見通しについてちょっと専門的にお聞かせ願いたいと思います。

それと、もう一つ。ちょっとこれは飛びますけれども、これは建築課長さんのほうでございします。

市営住宅の、使用料、手数料に関連することでございます。これは当初使用料及び手数料は四千四百五十七千円ですか、この中に市営住宅の借上料も含まれておると思いますが、これも、これは今回提案されました補正予算の中には含まれておりませんけれども、たしか一部の住宅の料金アップがあったように聞いておりますが、どうして補正しなかったのか、簡単にけっこうですから御答弁いただきたいと思ひます。

○財政課長（長谷川広治君） 特別交付税の現在の見通しでの減額分と、更に将来の見通しということでございますが、この点は五月の予算編成時点におきましては、職員の期末手当等につきましても条例どおりというような関係から、調整数字のないものという予定でそれぞれ計上いたしたわけでございます。しかし、現実に四割ばかりの条例以外の分がございまして、そういうものを合わせまして、現在の見通しとしては二千八百万程度のものが調整数字として特別交付税から減額されるのではないかと、いう予定をいたしておるわけでございます。

特別交付税は御案内のとおり交付税額のうちの百分の六の額を振り向けてゐるわけでございます。この交付税が多くなると申しますか、交付税のワクが全体として大きくなった場合、あるいは少なくともった場合で相当違うわけでございますが、現在の四兆四千億の交付税総額の中で割り振りでみた場合に、いま言った私どもの考へてゐる交付税から二千八百万弱程度のもが調整数字として減額されるのではないかと、いう見通しでございます。国の交付税に対する予算措置等によってまた若干の相違は出てくるのではないかと、いまの見通しでの数字でございます。

○建築課長（内藤重雄君） 割り増し家賃の補正を計上しなかったのはどういふ理由かという御質問でございますが、割り増し家賃は五十年前から館山市では実施してまいったわけでございます。そして前年の所得を一年中に入居者から報告を求めまして、二月に市長が認定して決定するといふようなことになっておりますので、当初予算には当然間に合はなかつたわけでございます。

現在、大体年間百万円程度の割り増し家賃が見込まれておるわけでございますが、現在の割り増し家賃の入居者が退居し、新しく入居者が入りますとその額も違ってくるというわけでございまして、いづれ補正はいたしたいとは考へておりますが、今回は見送らしていただいたわけでございます。以上でございます。

○一四番（石井輝久君） 建築課長の御答弁でございますが、

これは将来補正するということでは承しておきます。

財政課長の御答弁でございますが、これで質問を終わりますけれども、国の財政事情によって地方に影響を及ぼしてくることは、これは否定できない事実でございます。その点はわかりませんが、少なくとも繰り上げ充用をした時点で太鼓判を押されけれども、少なくとも繰り上げ充用をした時点で太鼓判を押されたいわけでございます。あの時点で太鼓判を押されたことと、その後生じてくるいろんな諸事情によって赤字というものとはイコールに結びつけて考えられちゃちょっと困ると思ひます。繰り上げ充用をした時点で財政当局がお考えになつておられたことは、はい、いふことと、今後生じるであろういろいろな事情の変化等から不足額を生じてくるといふことは一応分離して考へていくべきだろふと思ひますが、その点は将来の問題です。から一応申し上げるだけ申し上げておいて、以上をもって質問を打

ち切ります。

○一八番（渡辺軍治郎君） 一つお伺いしますが、一四ページ都市計画費の街路事業費が三百六十五万減額になっておりますが、これは船形から館山の舗装工事といいましたけれども、これは市道ですか。

○土木課長（飯田治男君） 御説明申し上げます。

これは船形から館山へ来ます海岸道路を交通安全のほうで歩道工事を本年度実施する予定でございます。歩道工事を実施し終ったあとに、現在の舗装がだいぶんおりましたので、舗装の補修を私どものほうで計画しておりましたが、歩道工事が来年の三月上旬ごろまでかかりますので、補正の財源といたしまして三百六十五万を減額いたしました。この分を翌年度の四月以降に舗装するように延期いたしましたわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 補正予算を見ますと、県単事業、布良漁港荷揚げ場八百六十五万八千円とか、県の事業が減額になっておりますが、これは県の財政事情によるものかどうか。市の財政事情によって、要するに県単事業をやるとすれば負担金がつきますから、県、市ともに財政事情は、見通しとすれば、政府がある程度補てんしてくれない限りむずかしい面があるので、減額補正で来年度に繰り延べるとか、そういうようなあれが出ていますわけですよ。

それと、市の歩道に伴う舗装事業、こういうものは五十一年に繰り延べるというお話ですが、当然こういう事業は早くやるべきもんだと思うんですが、それを繰り延べるというようなのは結局市の財政事情から来ているのか。土木課長の説明では仕事の関係

からというふうな話ですが、要するに繰り延べるということは財政事情もあると思うんですが、そういう点からではないんですか。

○土木課長（飯田治男君） ということじゃなくて、結局三月の上旬ごろまで歩道にかかりますと、三月一ぱいに舗装工事が終わらなくなっちゃいますから、三月一ぱいに終る程度の工事を残してあとのものを翌年度に延期するというところでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 県の事業の繰り延べは、結局県の財政事情によるものですか。それとも市の財政事情によるものですか。これは水産事業で八百六十五万八千円、布良の荷揚げ場がありますので。

○水産課長（谷貝茂生君） この事業は布良の水揚げ荷さばき所、鉄筋コンクリートづくり二階建てでもって四百七十平米ばかりのものをつくる予定で、県のほうに予算の編成前に連絡をとりまして、助成関係を一応打診したわけでございます。その時点では何とかなるだろうということでしたのでございまして。

もちろん、県のほうの財政事情もございしますが、いろいろ内容を検討いたしました結果、近代化施設設置事業で助成をいただきますと十分の三の助成でございます。ところが来年度からまた構造改善事業が実施されますので、そのほうにのせてやれば十分の五の助成が得られる、非常に有利になるという理由が一つと。

それから、荷さばき所の計画が、布良の水揚げ状況等から考えて少し規模が大き過ぎるんじゃないかということもございまして、それから将来の相ノ浜との合併の関係、あるいはまた新しく建設途上にあります港に対する荷さばき所の将来の位置の問題、そういったことございまして、現在布良でもってすぐこれだけのもの

のを建てるという事はもう少し再検討する必要があるんじゃないかという面と、延ばしたほうが助成の恩恵が多くなるというのとで、本年だけは地元としても見合せて、有利な助成のほうに切りかえたいということで、地元からの考えもございましたので、一応見送りしていただく、そういうことになったわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一八番（渡辺軍治郎君） まず私は補正予算の中で、先ほど議案で豊房育成牧場の使用料が百二十五万円、歳入の面で計上されていきます。これは議案との関連もありまして、値上げに反対したために補正予算の中に組まれた収入に対しては反対するわけでございます。

それから、補正予算というのは、市民の要望にこたえて事業をやるために補正予算が減額ではなしにふえていくというのがどこでもとっているたてまえだと思ひます。ところが市のほうはや

ることがあっても、それをむしろやらないようにといひますか、大体抑制することが市の三億五百万円というように赤字財政からみて、できるだけ仕事は差しひかえようというように考え方が相当あると思ひますが、そういうところから補正予算がプラスの補正予算じゃなしに、六千三百万円の全体で減額補正というようにことになっていますが、館山のいままでの生き方を見ますと、取るほうは取っても出すほうは出さないというように非常に緊縮財政といひますか、それに縛られているような感じを強く受けるわけです。

こういうことから、一応学校関係一中、二中の減額補正にしても、値上げを見込んだのがそれが値上げしないで済んだという理由もありますけれども、全体として流れているのは何か仕事をやるのではなしに仕事を控えて減額補正のほうへもっていくという感じを強く受けるわけです。

そういう立場と先ほど申し上げました育成牧場の値上げ分、そういうようなことについては反対でありますので、この補正予算については反対いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決に入ります。

本案の採決は起立により行ないます。

原案に賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十分 休憩

午後一時五十分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十六名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第七、議案第六十五号昭和五十年館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

議案第六十五号 昭和五十年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○一六番（安西益治君） 補正予算量は中央水道が四百五十戸ということになっておるわけでございますが、それから年間給水量、これは上水道、中央水道、簡易水道、全部これだけ減るということになっておるわけですが、当初の積算はどんなふうに考えておられたか、それをちょっと伺いたいと思います。

それから、九ページ委託料の百万円、水源調査委託料ということになっておりますが、これはたいへん夏季の水不足ということとで真剣に取り組んでおられるということでございますが、調査の結果来年の夏前までには水対策の方向が、見通しがつくのか、そ

の点について。

○水道課長（大嶋重義君） 第一点の中央水道分の年間給水量等の減をいたしましたいきさつについて御説明いたします。

中央水道につきましては、当初百六十七万九千立方メートルを計上いたしましたわけでございます。給水量につきましても、給水戸数につきましてもこれを積算いたします。当時まだこの施設は房州水道のものでございまして、私どもは一月の終りにかけてこの予算の編成をいたしましたわけでございますが、この時点で会社から資料を取り寄せましてそして積算いたしましたわけでございます。これが当時のもので、給水戸数におきましては四千七百戸で、給水量の年間が百六十七万九千トンということで当初予算にこれを計上いたしましたわけでございます。

四月一日から市管に移管を受けまして、五月に第一回の検針を行ない、さらにまた七月に第二回の検針等を行なったわけでございます。こうした私どものある程度の実績等を押さえて、当初予算に計上したものが非常に差が出てきたということで、一般の料金改定等におきます全体での年間給水量等も見直したわけでございますが、そうした関係で給水量につきましてはこれを百五十一万一千立方メートルが実績と将来の見通しによって、これが最も確実視される数値であるということで、このように減らしたわけでございます。

また、一方給水戸数のほうは、減らしたわりに四百五十戸ふえた形になっておりまして、この関係が不合理に感じられるわけでございますが、私どもが四月に引き取りました給水戸数が実際には四千九百六十四戸でございます。それでこれが四月から九月ま

での加入戸数が九十戸ございました。さらに十月から三月までのいままでの他の施設等の関係での推定でございますが、これを下半期を九十六戸ぐらいに押えたわけでございます。そうしたことでことしの年度末での給水戸数は五千五百五十戸と、このように押えた関係で増にいたしましたわけでございまして、決してこれが、むしろ今後増ということでなくして、このものが当初計上すべきものが少なかったということでの増でございます。

それから第二点の水源調査のための委託料でございますが、これにつきましては、私も前からいろいろと議会のほうから強い御指摘を受けておりまして、夏場はなんとか切り抜きたいということ、できれば来年の夏には調査を終って水源手当を行ないたいという考えでございます。現在私も考えておりますことは、もともとこの水源につきましては作名ダムをやる前に相当の調査費をもって市内の水源調査を行なっておりますし、ある程度の資料もございます。そういうようなことでそれらの資料を中心に、さらに確実視される水源を調べていきたいという考えでございます。ですから、そうした調査とさらに確実にするためにはある程度のボーリングを行なうとか、電探調査を行なうとか、あるいは全ての資料を総合、勘案したものと考えての百万円の計上でございます。大体主に地下水を利用したいということでのものでございます。

○一六番（安西益男君） 中央水道はある程度そういった点でわかりましたけれども、簡易水道も減ってくるということですね。それはどういう関係ですか。

それと、ちょっと実質的に戸数としてどのくらいふえているの

か。全体的に戸数、そういった点。

それから来年度までに地下水を主として対処したいということでございますけれども、若干いままでもそういっためぼしいところなどは現在までわかっている範囲があるのかどうか。いままでも井戸ないしは貯水槽等というよりな市長さんからの話もありましたけれども、いずれにいたしましても夏前に完成するような方向で積極的に進めていっていただきたいわけでございますけれども、そういった見通し、夏までに間に合うのかどうか、戸数がふえてきますと当然ふえていくと思いますが。

そういった点で、来年の夏はまた非常に深刻な水不足ということが想像できるわけでございますので、そういった点で実質的にどのくらいふえているかということ、上水道、簡易水道、減という見通し、それから夏前の対処の、水源の方向づけ。

○水道課長（大嶋重義君） 第一点の上水道と簡易水道の減の関係でございますが、これにつきましては市営でございましたので、ある実績がつかまれているわけでございますが、これにつきましては大きな理由は水道のここ一年来、ことしにいたしましたも落ち込みが予想されるということでございます。こういうことからの減が大きなものでございます。

それから水源手当の関係でございますが、これは私も水源調査を専門的にやってもらっていないという、具体的なことは申し上げられませんが、給水状態からして西岬、宮城の関係が毎夏断水を起こしているわけでございます。あとはことしから運営するようになった中央水道の関係でも、やはり給水状態がよくないわけでございます。

ですから、私ども大きくしほってこの二地域のものについて水源手当を考えていきたい、こう考えております。ただ、こういった市内のことでありますので、表流水とか、そういうものがしろうと考えから見ても無理なこととは思われますので、一応地下水あるいは受水槽ということが当面考えられるわけでございますので、そうした面からこれを専門のコンサルタントにお願いして調査を進めていきたい、こう思っております。

この水源手当は私ども水のことでございますので、夏深刻な水不足で御迷惑をおかけしておりますので、なんとかして作名ダムができるまで応急の措置だけはしていきたい、こういうことで今回の委託料、調査費の計上でございますので、夏までには間に合わしたいという考えで、私ども今後の仕事を進めていきたいと考えております。

いずれにいたしましても、調査の結果によりましてどういう答えが出るか知りませんけれども、それをまっでできるものならば全力を尽くして、夏までに間に合わして水事情の状態をよくしていきたいと考えております。

この間までに新規加入、そういったものでも多少ふえるものもあるかと思いますが、私どもは全部がそれをかなえるとはいえず申し上げられませんが、そういったことを考えて、できるかぎり水不足の解消に努力していきたい、このように考えております。

○一六番（安西益男君） 落ち込みということでございますけれども、それをちょっと具体的にお話しいただければと思います。

そうしますと、実質的にふえていくのに申し込みの受け付けは

される方向でいかれるのか、その点ですね。

それから、これは直接水不足に対処される方向として。実は三芳水道のダムですけれども、その近くに相当な貯水量のある、ダムに匹敵する場所があるということで、地元の三芳の議員さんからの要望があったわけでございますが、管理者の立場で市長さんからも検討するというお話がございました。相当な貯水量があるということで、それは加圧ポンプなりを使えばそう費用がかからなくても現在の三芳ダムのほうへと水がひっぱれるということで、一千五百万から二千万ぐらいでできるんじゃないか、三芳の議員さん力説しておりましたから、五十三年度までにできればけっこうですが、そういった見通しも断定がなかなかむずかしいと思いますけれども、二年、三年というような、順調にいつて五十三年ということでございます。延びることになると問題はさらに大きくなっていくわけですが、そういった点であまりたいして費用はかからないんじゃないかという三芳の議員さんのお話等、そういった点も検討されて、水も豊富にある、十分にあるということでございます。パイプ等の接続も若干問題はあろうかと思いますが、これもこれは現在つながっているパイプから制限なくひっぱるといふことになる、相当市内の水は解決される。これもひとつ合わせて御検討されたらどうか、これは確実な量を確保するためにはそういったこともひとつ資料の関係等も研究されていただけだと、それはひとつ要望としてお願いしておきます。

○水道課長（大嶋重義君） 第一点の加入者の受け付けの関係でございますが、確かに水事情は悪うございますけれども、生活用水市民の加入をとめるといふことも重大なことでございますので、

私もそういった加入については拒否できませんので、従前どおりの受け付けをいたしております。

ただ、今まで制限いたしましたのは、夏の間の非常に困るなかで、そうしたものを無制限に受け付けるということは非常に困難が生じますので、従来もそうでございましたが、夏場の加入についてはこれを速断してもらっていたことがございますが、水のほりもある程度安定してまいりましたので、そうしたことなしに従前どおり受け付けたいと思います。

○一六番(安西益男君) たいへん水道行政上申し込みも受け付けなきやいけないし、来年の水不足も目に見えてわかつているわけですが、たいへん困難な状況だと思えますけれども、そういった点であそこの笠名、大賀のあたりの住宅は断水で非常に困るところでございますが、地元としては何とかして井戸を掘ってもらいたいというようなたいへん強い要望があるわけですが、これももちろん地下水と併せて地元の強い要望等考慮していただきたいというふうに思います。以上で終わります。

○二三番(菊井敏博君) 一点だけお聞きいたします。

九ページの受水費について、予算が倍以上補正されているわけですが、これは受水の見込み違いが、この前説明聞いたと思うんですけども聞き忘れたんで、受水費についてお聞きしたいと思います。

○水道課長(大嶋重義君) ただいまの受水費の関係でございますが、これにつきましては当初予算に一立方メートル三十七円の単価で、これを二十五万六千二百十六立方メートルを見込んで九百四十八万円を計上いたしましたわけでございます。

ところが、房州水道が四月一日に移管になりました、ちょうど六カ月近く経過いたしましたわけでございますが、この実績を見ますという受水量が月に約三万立方メートルでございます。これはいきますと年間約三十六万立方メートルが見込まれるわけでございます。この料金を換算いたしますと、四月一カ月分だけは先ほど申し上げました三十七円の計算でございます、あと残りの十一カ月分につきましては三芳水道の値上がりによります一立方メートルにつき六十円の計算でございますので、これを一カ年合計いたしますというこの料金は二千九十一万円になるわけでございます。

したがいますして、当初予算との差額の不足が千百四十三万円というところで、今回このように計上いたしましたわけでございます。

○二三番(菊井敏博君) それで、房州水道の時代と現在の館山市で受水する量との比較といえますか、房州水道の時代で幾らで、館山市が受水している量が幾らかということをお聞かせ願いたいと思います。四十九年度だけで結構です。

○水道課長(大嶋重義君) 四十九年度三十四万二千五百六十三立方メートルでございます。

○二三番(菊井敏博君) そうしますと、ことしの館山市の受水量といままで房州水道の受水量はたいして変わらないわけですね。ということは、房州水道時代と館山市になってから相当開きがあるんじゃないかと思えます。

今後、三芳、富浦両地区に対しても、大房の開発とか三芳の過疎対策、いろんなことが出てきますと、将来水問題、向こうの三芳水道から館山市へ流れる水の問題が大きく、また問題になるん

じゃないかと思ひまして質問したわけですが。

それと同時に、関連がないかもしれせんけれども、風聞しますと、三芳、富浦のほうで館山に水を流すということに何か抵抗があるということを開きまして質問したわけですが。夏の最盛期に増間ダムが危険な状態でないときに三芳水道が水の送水を止めたいということがあつたわけですか。なぜ止めたかというように真相がわかればあわせてお聞かせ願ひたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） 私どものほうの水道は三芳水道から一

日多いときで最大千二百ないし三百立方メートルの分水を受けていたわけですが、夏場の最盛期になりまして三芳管内の富浦等は非常に民宿が多くて観光客が入り込んでくるということから、毎年の例でございしますが消費量が非常に増えてきたということと、前年度に対して相当加入量が増えているわけでございます。こういうようなことからあそこは一日の浄水能力が五千立方メートルでございます。こういう能力に対しての消費量がそれを上回る状態になったといひますことは、水は貯水池にあつても能力との関係でそれを持続すると、やはり断水という非常事態を引き起こすことになりますので、そういう関係で私どものほうは一応もらひ水をしているという立場でございしますので、給水制限を受けざるを得なかつたというのが主な夏の断水騒ぎを出したものでございします。

断水が起きたのは七月の下旬の日曜から八月にかけて起きたわけでございます。当市は二カ所でドッキングをして給水を受けているわけでございますけれども、上のほうの管でこれを全部止めていないで一日最悪の場合で百三十トンぐらいというようにすることで制

限いたしたわけでございますが、そういう制限になりますというのと当然断水が出てくるということで、中央水道の市役所から八幡にかけての地域がおつしやるような断水騒ぎを起こした、こういうわけでございます。

○二三番（菊井敏博君） それでは私の考え方をいって課長さん、市

長さんはどうかということをお聞きしたいわけですが、来年になればもっと加入者もふえますし、三芳から館山市へと送水する水の問題というのが来年もっと大きい意味で、逆な意味で深刻になると思ひます。いま安西議員さんがいわれたような方法をかねてあそこに浄水場を敷設して、水をもう少し館山市へと送るというような方法が一番確実ではないかと思ひますけれども、いまいろいろなことでも水源池をさがすということもけっこうでしようけれども、実際これから作名ダムができる、作名ダムの水が出るまで三年間かかると思ひます。三年間の水対策というのは一番確実な方法を求めていくべきではないかと思ひますけれども、その点はいかがですか。

増間ダムの水は相当あるわけですから、浄水する水の量が少なから館山市へと満足に送れない、この前たしか三芳の水道のほうへ出ていたときには、館山市も三芳も富浦もマル公同志ですから、お互ひに水がなくても断水させるようなことはしないというようなことを私たちが皆さん方と話し合つたことがあるわけですが、それが断水になったということを開いて、来年、再来年、三年先を考えると不安になるんです。まして富浦あたりはこれから大房を開発すれば、もっともつと向こうへ行く水の量はふえますからその分どうしても館山市が制限されるということになると水問題

が深刻にならざるを得ないので、そういうお考えがあるかどうかお聞かせ願いたいと思ひんです。

○市長（半澤良一君）　ただいま菊井議員さんから御質問ございましたけれども、増間の奥に水源があるので利用したらどうかという声が確かにございますけれども、私が聞いておりますところでは、単に浄水場をつくって水を浄水しただけ、その能力だけをふやしても、現在の三芳水道の配管関係は一日の処理能力五千トンということでパイプもできておりますので、浄水場だけをふやしても水を送れない、配管自体をかえていかなければならないと聞いておりますので、不可能じゃないかと考えておりますけれどもなお、引き続き検討させていただきたいと思ひます。

○二三番（菊井敏博君）　私専門家じゃないんでわからないんですが、ただ来々、再来々、三カ年で三芳のダムから館山市へ送るということが将来問題になると、それこそ方法がないという事態に立ち至ると思ひますので、関係町村と話し合つて、ひとつ格段の御努力を要望いたしまして終ります。

○一八番（渡辺軍治郎君）　いまの問題と関連して水源の問題でお聞きしたいと思ひんですが。

宮城水道は貯水池に水があつて、笠名、大賀、あゐうところに水が届かないというようなことであります。それは配管の関係にあるというようなことを聞いています。水圧を上げた場合に貯水池の水が届くようになるかどうか。そういう点は研究したことがあるかどうか。まずそれをお聞きしたいと思ひわけでございます。

○水道課長（大嶋重義君）　この宮城水道の関係でございますが、

あそこで水が出なくなるという理由は三つあるわけです。

一つは、一番もことになるのは水源がやはり確保されないということが一番大きな要因でございます。

もう一つは、あそこの浄水能力は一日六百平方メートルでございます。特に夏になりますと、あの周辺も相当旅館もできましたし、会社の寮等もできておりますので、こういう関係でやはり浄水能力を上回って消費されるという、こういう事態から起こります。

もう一つは、配管と地形の関係でございます。あそこの水道は海軍の航空隊の専用水道であつたわけでございますが、これが終戦後にあの施設を大蔵省から市が借り受けまして簡易水道を始め、その管を延ばしたりして給水しているわけでございます。こういう関係で管自体が非常に古かったり、管の引き方についても不合理な引き方をしている面もあります。

さらに、大賀の下の方に市営住宅、防衛庁の官舎等が相当戸数も増えまして、給水しているわけでございまして、同時に送つてもそれが低いほうにとられてしまつて給水するような形になって、笠名の県道から上のほうが断水という状態になる。こういう現象がおこるということで、あそこの土地の給水については非常にむずかしいわけでございます。

ですから、水圧を上げるといひましても、もとはやはり水が十分ないというところというところでもできなきますので、あそこを解決するものは、まず水量を確保する、それから浄水施設を直す、もう一つは配管関係、こうしたことを直すことによつて解決される、このように考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 三つの方法があるようなことを言われ

ましたけれども、貯水池に水があつて浄水能力が六百トンということ、もしこれを増すなら相当貯水量に応じて水が配給されるようになるのかどうか。そこらをやっぱり考えることが一つあると思うんです。

もう一つは、水圧が低いところに流れて高いところにいかないというのは、加圧ポンプをつけて高いところに押し上げることができるかどうか。

それからもう一つは、浄水の貯水槽を非常用としてやっぱりつくれば、常時そこに浄水をためておいたやつを加圧ポンプなんかで使うということも考えられると思うんです。

もう一つは、五十メートルプールですが、漏水のために使用を停止しているわけですが、あそこをもっと量を入れるようにして、あそこを貯水池として使うことも考えられないかどうか。そこらの点一つお聞きしたいと思います。

○水道課長（大嶋重義君） 加圧ポンプの関係でございますが、これをつくる場合に一番条件になりますのは、水道の配水管、給水管に水が豊富にあるということが前提条件になるわけでございます。いまの宮城の關係にしましても、先般来渡辺議員さんからおことばをいただいているわけでございますが、いまの状態ではこういう加圧ポンプをつけても十分な効果を發揮しないというふうに私どもは考えております。ですから何がなんでも水がとまらないように豊富に送れるような状態になっていなければいけませんので、そういう面にひとつ意をもちいていきたい。このように考えております。

それから貯水槽でございます。貯水槽にためる場合にしても、水が豊富にあればよろしいんですけども、たとえば宮城の關係につきましては、実際にあそこの宮城のダムは五万一千トンの貯水量でございますが、これは上に川があつて流れ込むということではなくて、回りの山に降った雨が集まつての用水ということになるわけでございます。したがしまして、あそこにたくさん水があつても実際には西岬から涇とんど、年間の十一月は西岬の地下水が香の地点でドッキングしてございますので、送られておつて大賀、笠名の地帯が困らないように給水を受けているというのが実情でございます。

ですから、貯水槽をつくつてあそこにとめるということの考え方でございますけれども、実際には相当の大きな貯水槽でないとこれをまかなうことはできませんし、私どもの考えでは西岬の涇の水源手当なりをして、それから西岬の涇を困らせないような形で送られるようにした涇が確實ではないかと、このような考え方を持っております。

それから宮城にあります五十メートルプールの活用方法でございますが、聞くところによりますと、あのプールは水をためておくようにするには修繕費だけでも新設するぐらいの費用がかかるというよりなことをうわさに聞いておるわけでございます。あそこのプールは現に水はないと思いますが、使わないという状態でおいた場合に、これに修理をかけるということは相当な費用がかかるんではないかと思ひます。

そういうようなこと等からしますと、私どもは財源があればそのものを作名ダムを含めた水道の拡張事業にあてて、一日も早

くこれを完成させて、とまらないような給水を実現したほうが得策ではないかというような考え方を持っておるわけでございます。そういうようなことで私どもこれからまた議員さんの御意見等もお聞きいたしまして、三房水道等の話も二、三耳にしておりますので、そうしたことも研究しながらなんとか水について一日も早く解決していきたい、このように思っております。

○一八番（渡辺軍治郎君）　せっかく調査費を百万円計上したわけですから、十分調査して地下水源を開発できればそういう方向でやるとか、十分ひとつ検討してもらいたいと思うんです。

それからもう一点お伺いしますが、量水器の取りかえが千四百五十万円支出されていますが、量水器の取りかえはこれで全部終わったのかどうか。

○水道課長（大嶋重義君）　量水器の取りかえの関係でございますが、ただいままでに終ったものが、私ども水道課の直営で済ましたものが百九十八ございます。それから業者へ依頼して行なったものが七百四十四でございます。あと非常にむずかしい、市内で敷地の関係だとか、いろんな関係でむずかしいところがあるわけでございます。これらのものが百ばかり残っております。これも業者を奮励して早くいたしたいということで考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君）　量水器千九百といったように聞いておりますが、これで見ますとだいぶまだ残っているように思われますが、それはどうなんですか。

○水道課長（大嶋重義君）　これにつきまして、補正予算におきまして千九百個を計上いたしましたわけでございます。この内訳は大体私どものほうで業者にお願いするのを、この前料金値上げの際に

皆さん方に発表した数字は八百二十四でございます。その後検針等をして回ってみますとさらに発見されております。こういうようなことで私ども九百個を計上いたしましたわけでございます。あと千個分につきましては法定の期限がございまして、この期限の切れるものが約千個ということで、不良とか定額とは別なもので考えていたものがこれだけあるということでございます。こういった関係につきまして中央水道によらず従来の市の水道につきましてもそういった期限の到来するものは順次取りかえていく。こういうことでございます。そういうことでこの数字は多少の変動はございます。

○一八番（渡辺軍治郎君）　量水器の関係では九月検針のことがありますから、一応料金の請求というのは九月検針に基づいて十一月、十二月ですかということで、量水器が全部付けられていれば正確な計算というものが出ると思うんですが、量水器がまだ付けられないで当初のあれからみると九百四十二、まだ百ぐらい残っている。これはむずかしいとこだというんですが、期限がきてはたして量水器が正確に動くかどうかということもまだはっきりしてないと思うんですよ。期限がきてても使えるやつもあるだろうし、使えないやつもあるだろう。そういう点ではまだ不十分なふうに考えられるわけですが、そういう中で値段が倍以上上がっているわけですから、正確な計算がなされないとかかなり不公正になります。そういったことも考えられるんですよ。

ですから、そういう問題については十分やらないと、きのうもから回りするというような問題も出まして、かなり大きな問題になると思うんで、そういう点は積極的に、補正予算は九百個です

か、もっと出さなければいけないんじゃないかと思いますが、そこらひとつ十分やってももうようにお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後一時五十二分 休憩

午後二時 八分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○一四番（石井輝久君） 一〇ページ、一一ページの国庫補助金九

千九百五十七万円の増額補正でございますが、国全体の財政危機が叫ばれておる今日、防衛庁関係で七千二百八十八万、厚生省関係で二千六百六十八万八千円、意外な感にうたれるくらい増額されておるわけでございます。これによって作名ダム completion に一歩近づくものと期待されておるわけでございまして、この点市長並びに関係者各位の御努力に対しまして敬意を払うものであります。なお一そうの御努力をお願いいたします。

ところで、今度の増額補正によって今後の作名ダム建設の状態につきまして、具体的に御説明を承りたいというのが第一点でございます。

それから、引き続きまして、水道拡張費委託料千二百七十九万八千円の増額補正でございますが、ダム工事管理監督委託料でございまいしうか、建設技術研究所に対する委託料、しかも契約金の不足というような御説明を承ったわけでございしますが、契約というのは契約締結時に金額が定まるものであるかと思ひまして千二百七十九万八千円というのが建設技術研究所の契約金の不足であると思ひません。二つに分かれておりますから、それにしても一たん契約をしてどうして不足を生じたのか、御説明を承り

たいのでございます。

それから、一一ページ支出の営業費用三千二十七万円の補正でございますが、これは先ほど一八番議員からの御質問と関連すると思うんですが、この三千二十七万円の増額によって量水器は市内全域にわたって完全なものとなるのかどうかその点を伺います。

なお、関連いたしまして検針につきまして伺います。先般館山の笠名で一件、大賀で一件あったんでございますが、検針にきた人が、私は目で検針のあれを見たことはないんですが、その二カ月分の検針、立米数の入ったものを置いていったということでございます。それで計算をいたしますと二カ月分だから、新しい料金表に基づくとか一カ月分がトータルされてえらい料金になるわけです。もらった人は二カ月分じ。なくて、その量が自分に課せられた料金であると、それで計算をすると使用水量が違ってくるわけです。つまり錯覚ですが、要するに払うのは二分の一というか、月別だから料金の計算の方法が違ってくると思うんです。

そこらの点は、先般料金改定で今回ここで補正して増額されるわけですが、それはそれとして料金徴収にあたってはよくわかりやすいように心がけてもらいたいと思います。周知徹底されるためにいろいろな方法もあるかと思ひますし、検針に行かれる方々御苦労でも説明するなりされたいかかと思ひますが、そういう点水道課のほうに市民の声として入っているか。また入っているとすれば今後どういうふうに御処置なさるか、その点をお聞きしたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） 第一点の今後の作名ダム建設の状況でございますが、作名ダムの関係は大きく分けましてダム本体の工

事と、それから浄水施設の工事と、それから配管関係の工事、この大きく三つに分けて水源の拡張の工事が終わるわけでございます。

現在ダムの工事にかかっておるわけでございます。これにつきましては本年度から本体工事に入っていくわけでございます。本年度総額では六億九百九十三万一千円の事業費でございまして、そのうち補助事業費の関係が四億四千五百四十七万円ということと仕事を進めております。それで本年度、この前もお話ししましたように、事業量が一億五千万ふえたということになりますので、これでいきますという、来年度工事分がことしに繰り上げ施行になりますので、来年の夏にはダムの本体は完了する。こういう目標でございます。

それでそのあとそのままにしておきますと、工事の進捗に非常に影響するわけでございます。私どもはこのダムを一日も早く、こういうことで進めておりますので、このダムの完成の年度に合わせて水道施設も並行して実施していきたい、こういうことで現在防衛庁にもそのようなことで折衝をいたしております。

そして、浄水場と本管の配管につきましては、五十年、五十年、五十二年でこれを完成にもっていきたいという考え方であります。

これは工事の内容から、また経費の面からしても容易ならぬものでございますが、とにかく水事情が非常に悪うございますし一日も早く水不足を解消したいということでございますので、これにつきましては、財源関係につきましても補助金、起債等に行ける限りの努力をいたしまして、是が非でも五十二年度末には完成したいというように考えております。

それから、第二点の委託料の関係でございますが、これに今回二つ盛ってあるわけでございます。

一つは、いま申し上げましたように、水道を早く完成するためには今年度中に水道施設の実施設計、浄水施設関係でございますが、この実施設計が完了しないという、来年度これに取りかれないということでございますので、これを今年度の実施設計を行いたいというのが下の欄の委託料でございます。これはこの中で金額はちょっと申し上げられませんが、これも大きなものでございます。

それから、あの上の欄の、ただいま工事管理監督委託料でございますが、これはただいま御指摘をいただきましたように、ダムの管理監督委託につきましては株式会社建設技術研究所に依頼しておるわけでございます。これは当初予算が三千九百万でございます、まして、実際の契約は四千二百二十九万八千円でございまして、これで一応契約は終って、このものにつきましては私どもこの中の委託料の金額が少しでございますので、委託料の他のものを振りかえてこれに充てて一応契約は済ましたわけでございまして、確かに御指摘のとおりでございます。そうしたことで不足分をここに計上いたしましたわけでございます。

それから第三の、営業費用にもった中で問題になっている、量水器はこれでもうすっかり完全なものになるのかどうか。こういうお尋ねでございますが、これにつきましてはこの予算をいただきますれば、いま私どもが検針等によって補足されている不良メーターとか、あるいは定額、そういうものについてはこれで一応の区切はつけられます。ただし量水器につきましては八千円か

らあるわけですが、いろいろな機種のものも入っておりますが、これは検針のときにそうしたものが発見されていくというような傾向がございますので、締めくくりまして検針、ほかの調査等でそういうものが発見されるものはないとはいえないわけでございます。そういったものにつきましても数の上ではそれほど大きなものは私どもないと思っております。一応これで行いますと大方のものは完了していく、こういうことに相なります。

それから、あと検針の件でございますが、市の水道の検針、それに伴う料金は二カ月分を検針し、また料金としていただくわけでございますが、これにつきましては今度も改正につきまして回覧板、それから広報、それから各一戸ごとに回つてこれの改正についての御理解を求める文書とその裏に早見表というものを添えて、さらに検針のときにはなるべく行った先で十分説明をするようにということ、係りの人に私のほうから指示してあるわけでございますが、そういう面で多少足りない面があったかもしれないけれども、そういうようなことで一応PRもいたしましたし指導しているわけでございます。

料金につきましては、二カ月分ですから、仮りにそれが十六トンだった場合に一カ月の八トンをはかるからあとその分は累進の金額でそれにかけていくということではございません。その場合はどこまでも二倍ですから、月のものが八トンが限界ですから、四十円のもの十六トンがどこまでもとだということとで計算しております。そういったことは水道に加入していらっしゃる方にはいままでの例でほぼわかると思いますが、新しく来られたり、それからまた中央水道になる前におきましては一カ月ごとに検針を

行っておりましたので、そういう面で多少この料金徴収や検針には慣れない方があらうかと思えます。電話等でも何人か聞いてきた方がおりますが、そのつど私どものほうでこれに答えております。そういうようなことで私どものほうはこうした料金、検針、これは非常に重要な問題でございます。水道事業にとって検針ということは非常に重大な部門でございますので、こういう面につきましては一そう職員を督励して、市民の皆さんに御理解できるようにいたしたいと思っております。

○一四番(石井輝久君) 第一点の国庫補助関係でございますが、今後とも御努力を要望する次第でございます。

ただいまの御説明で、五十二年度末をもって一応浄水場、配水管の関係まで終る予定だというお話でございますので、これを期待して質問を打ち切ります。

それから事務的なことから、別に深く触れていくつもりはございませんが、ただいまのダム工事管理監督委託料ですが、これは御説明ですと四千二百二十九万八千円の契約であるけれども当初三千九百万で予算を組んで不足分は他から流用してそれで今回補正をしたというふうに承ったんですが、これは特別会計ですからどうも足りなきや流用もまたよろしいんですが、ちょっと事務的に繁雑というんですか、テクニクがややこしいという感じがするんですが、この点は了承いたしましたして質問を打ち切ります。それからメーターの点ですが、なるほど検針時に不良箇所を発見して取り変えるという事例がかなりあると思えます。あると思いますので、今後とも一そうの御努力を要望いたしまして質問を終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。
本案を委員会付託を省略したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一八番（渡辺軍治郎君） これは水道料金の値上げによる補正予算でありまして、臨時議会でこの料金値上げが、給水サービスの対価である水道料金、それが給水サービスを悪化しているということとを解決しないで料金だけ値上げするのは不当だということに反対してきたわけですが、この補正予算の中では値上げ分が五千八百七十九千円になっているわけです。さらに、一応給水状態の改善をするために調査委託料として百万円の計上がありますがこれは遅過ぎたといえますか、料金を値上げする前に給水状態の改善をはかる、そういう事業計画なり、そういうものを補正予算に組んで料金を値上げするということならば了解できるんですが、そういう点が非常に不十分で、これは対価の問題として料金を値上げするならば一番問題になっている給水状態の改善をはかってやるべきだということを主張してきたわけですが、そういう観点

から考えましてこの料金値上げは賛成できないということで反対いたします。

○一三番（林 豊君） 私は賛成の立場から討論いたします。

臨時議会においても明らかにしたとおり、しかもこの補正予算には水源調査委託料の百万円を盛られておるといふようなことでこの値上げは水資源を解決せんがため、あるいは給水事情をよくせんがための補正でありますので、私は賛成いたします。

○一六番（安西益男君） 臨時議会におきまして修正動議を出したわけでございますが、これは可能だという願いを込めてしたわけでございますけれども、結果的には全面的な値上げということになったわけでございます。そこで現状からして、時代的な背景といえますか、そういった点ではある程度やむを得ないというような考えを持っているわけでございます。

そこで何がなんでも修正動議を出したから反対だということではなく建設的に考えていきたい、そういった面であらかじめ市長からの回答をいただいておりますけれども、来年度底部分な一般財源からの助成、さらにはまた来年の夏前までの水不足解決の努力を万全を期していただきたい。これに対してひとつ積極的な取り組みをしていただきたいという、そういった面から十分ひとつ立場をお含みいただきまして一応賛成したいと思うわけでございます。

さらにまた、これは広域ということじゃなくて、三芳水道等におきまして渡辺議員さんからも現状では地方の水道事業は成り立たないということも聞いておるわけでございます。県、国といつても一年や二年では解決しない。それはそれとして当然市として

も要求されているということはわかるわけです。そういう点で現状ではしかたがないんじゃないか。全幅の賛成ということじゃございせんけれども、そういう意を十分くんでいただいてやむを得ない賛成ということで。(笑声)

○議長(吉田勇治郎君) 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長(吉田勇治郎君) 採決に入ります。

本案の採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

散 会 午後二時三十三分散会

○議長(吉田勇治郎君) 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は、明十月一日午前十時開会といたします。その議事は昭和四十九年度各会計決算の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、報告第四号

二、議案第六十号乃至議案第六十五号

